

ありて

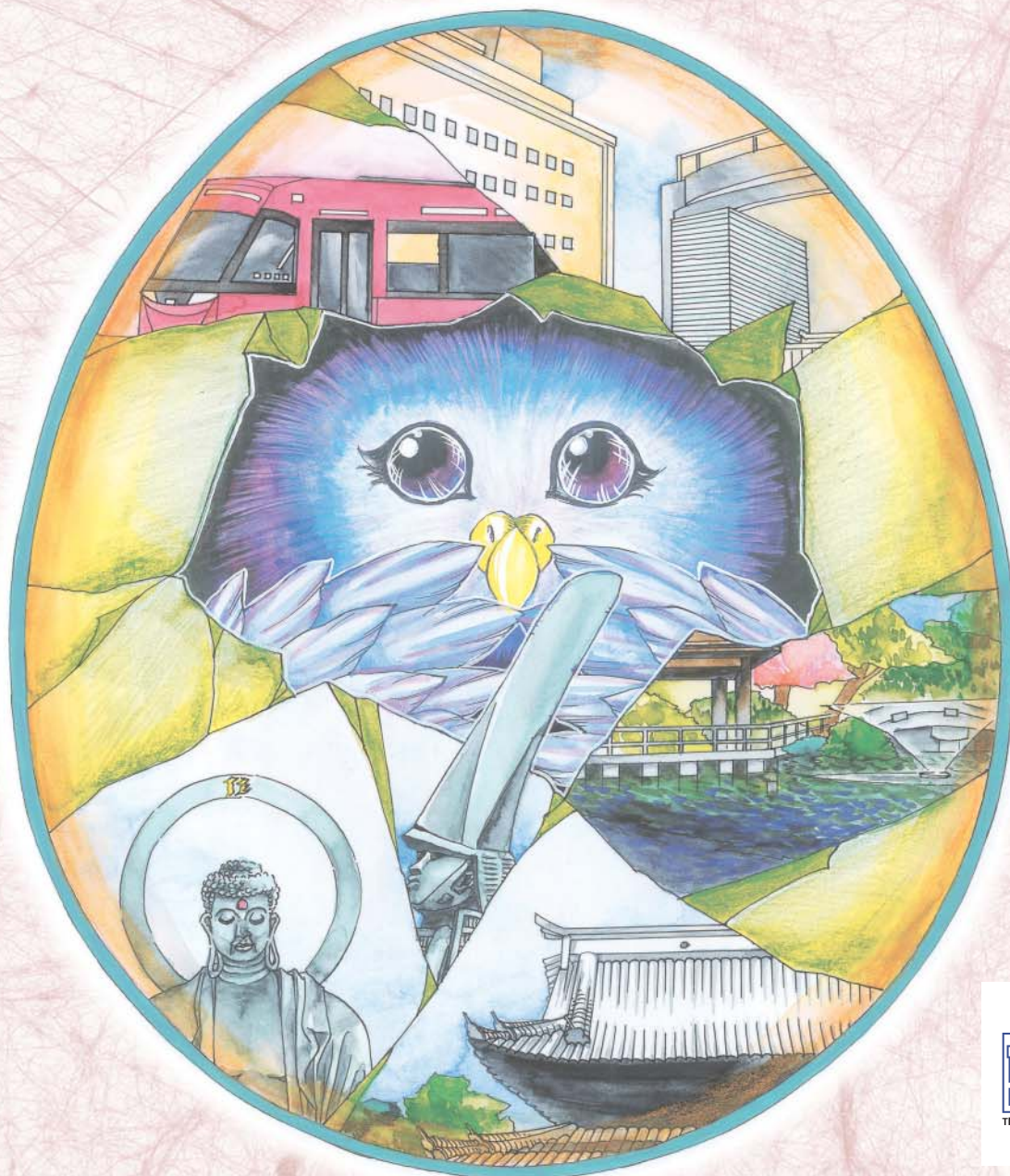
わたしの未来はわたしが創る

もくじ

- 特集 防災のすすめ ～女性の視点から～
.....p2
- センター活動登録団体紹介.....p6
- ぼくの参画スタイル
～幼稚園の先生編～/中川貴弘さん.....p6
- セピア色の写真から/「菅笠づくりは、私の友だち」
南 すめさん.....p7
- センターからp8

こんにちは。
わたしが
“ありて”を
ご案内します。

「ありて」は
自分の力で問題を解決していく
イギリスの童話
「アリーテ姫の冒険」の
主人公の名前です。



特集

防災のすすめ

女性の視点から

ここ数年、全国で大規模な災害が相次いでいますが、みなさんほどのように災害に備えていますか。

阪神・淡路大震災をはじめ近年の大災害では、災害直後に救出された人の多くは家族や近隣住民によって救助されました。また、災害時に直面する不安やトラブルが男性と女性では異なっていることなども明らかになっています。

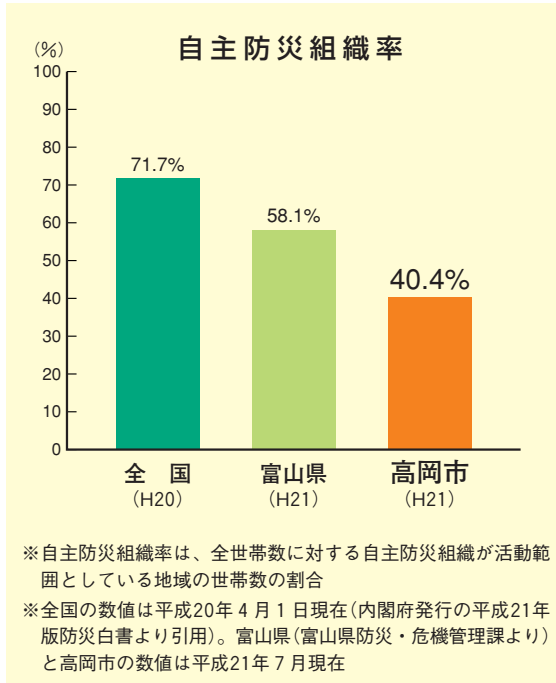
国は地方自治体などに男女のニーズの違いや双方の視点に十分に配慮すべきことについて地域防災計画に規定するよう要請し、高岡市でも平成19年に盛り込まれました。

また、高岡市では自主防災組織の結成を促していますが、組織率は40.4%と全国平均を大きく下回っています。

今回は、女性の視点からの防災と、自主防災組織について考えてみます。



【写真上】中越大地震での新潟県川口町の倒壊家屋
【写真下】川口町役場前に避難する住民
(燕・弥彦総合事務組合より提供)



災害時に予想される女性の不安やトラブル

ミルクや、紙おむつなどの生理用品の不足

一人暮らしの高齢者には女性の割合が多く(高岡市内でも65歳以上の一人暮らしの約8割*が女性)、逃げ遅れるケースも予想される。

※高岡市統計書 平成20年版より

家事・育児・介護の責任が女性に集中し、ストレスが増大する。また、働いている女性は職場復帰が遅れ、職場で非難を受けたり、解雇されたりしやすい。

災害のストレスによる、さまざまな暴力

「非常時」を理由に、プライバシー保護が後回しになり、授乳や着替え、トイレの不安が生じる。

女性は非正規雇用者の割合が多く、災害を理由に解雇されやすい。

災害の混乱時や、避難所など集団生活での女性・子どもに対する性暴力など

災害時には、男性は希望に関わらず早期に職場復帰する一方で、女性には困難な状況下での“妻・母・嫁としての役割”が求められ、育児や介護、家事などの負担が集中しがちです。

また、防災の計画・対策づくりや支援する側に女性が少なく、女性の視点に立ったものになっていないなど、さまざまな問題が阪神・淡路大震災以降、明らかになってきました。



自主防災組織ってなあに？

全国的に広がっている自主防災組織とは、
どんなものなのでしょう。

突然の大災害では、道路の寸断や建物の倒壊、多数の救助要請などで公的な救助隊が到着するまで時間がかかります。

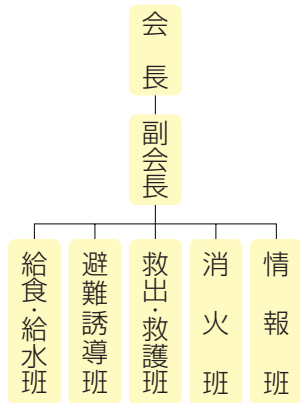
そんな時に効果的に初期対応できるのが「自分たちのまちは自分たちで守る」ために自治会単位などで結成する自主防災組織です。

■どうないうちをやるの？

日頃から災害に備え、災害弱者といわれる高齢者・障害者・乳幼児・外国人など、配慮を必要とする住民の把握をしたり、機材・食料・飲料水の備蓄を行ったりします。また、災害時には情報収集・伝達や初期消火、誘導、救出・救護などを行います。

高岡市では自主防災組織の認定を行っており、自治会や町内会などで話し合っって結成のうえ、組織の規約・役員名簿・活動計画書、避難場所等を明記した地図などを作成し市に申請すると、審査のうえ認定手続きが行われます。

■市の基準による組織のしくみ



■活用しよう、市の支援

高岡市では、自主防災組織の結成を促進するために出前講座の実施や、防災資機材の購入や防災訓練への補助などを行っています。

【危機管理室】 ☎ 20・12269

その他にも、心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の取扱い、応急手当などの救命講習に指導員を派遣しています。

【消防本部】 ☎ 22・3131

日常でのいざという時にも役立つ内容となっており、あわせて活用されると思います。

一宮自主防災会

(会長 山崎泰邦さん)



自治会で開催している住民運動会の種目の一つ、バケツリレー

伏木地区は自主防災組織率が100%と、防災意識の高い地域です。一宮自主防災会は、地域住民の防災意識の向上に寄与するため、氣多神社自衛消防隊や地域の消防団などの協力を得ながら結成し、平成11年に市の認定を受けました。

伏木地区全体や市、県が主催する防災訓練にも積極的に参加し、いざという時に素早く行動できるよう備えています。

また「防災は日頃からの地域のコミュニケーションの集大成」と捉え、自治会の住民運動会の開催時に炊き出しやバケツリレーを行って、老若男女、住民みんなの士気を高めるよう努力しています。

それらの実績が評価され、平成20年には県知事表彰も受けています。今後モカリキラムを工夫しながら、訓練をしたいと考えています。

活動しています★ わがまち自慢の自主防災組織



どちらの防災会も、訓練を恒例の自治会行事に楽しく組み込むことなどが運営のポイントのようです。

上石瀬自治会・自主防災会

(会長 神代 孝さん)

平成16年、台風23号による庄川の水位上昇を受けて、半数近くの世帯が避難所を一夜を明かしました。その体験を活かし、平成17年に組織されました。

同会では「楽しいことから始める」をモットーに、年2回の防災訓練の他に、住民が気軽に集うサロンなどの自治会・公民館活動の中で、赤字の災害時用のハイゼックス袋での炊き出しや、ラップを利用して食器を汚さずに食べる工夫、テント張り、情報伝達(言葉伝え)などの防災訓練を取り入れ、型にとらわれない「上石瀬方式」として、楽しんで活動しています。

8月には、隣接する野村第三・石瀬本町各防災会と合同で防災訓練を開催しました。約400人の住民の方が参加し、初期消火訓練や炊き出し訓練などに真剣に取り組まれました。



予想を上回る住民の参加があり、防災への関心の高さが伺えた8月の合同防災訓練

※ハイゼックス袋(炊飯袋)...

災害時に少ない水で衛生的に炊飯できる袋。汚れた手のまま食べられ、保存性も高い。

安心な避難生活、スムーズな災害復興を

避難生活が長びくほど、ストレスや不安が大きくなり、問題も深刻になりがちです。2ページの「災害時に予想される女性の不安やトラブル」をもとに災害時や避難所生活で配慮したいことを挙げてみました。

被災者の要望にすべて答えるのは難しいかもしれませんが、できる範囲で配慮していくことが問題解決への糸口になるのではないのでしょうか。

★作業は男女共同参画で

炊き出しや救護など、それぞれの活動や作業を男女共同参画で行う。

★男女の責任者を置こう

男性・女性のニーズに応えるため、避難所の運営には男女の責任者を置くと同時に、幅広い年代のニーズを吸い上げる。



★安心して使えるトイレを

女性や子ども用のトイレは特に設置場所に配慮し、通路も夜間照明で安心して使えるようにする。



★妊産婦の栄養状態に配慮を

災害時の食事は、手軽なおにぎりやカップラーメンなど栄養が偏りがち。特に妊産婦や病人の栄養状態には配慮が必要。

★女性専用のもの干し場を

女性専用の洗濯物を干す場所の確保。



★街灯を早期復旧し、防犯に努めよう

まちの街灯照明の早期復旧に努めたり、防犯のための見回りを行ったりする。

★日本語が通じない外国人にもわかりやすく

できるだけ簡単な日本語で伝達したり、通訳ボランティアを確保したりしながら、非常時にも共生をはかる。



【参考】

高岡市男女平等推進プランの「認めあい 支えあい 共に輝くひととまち」を目指す5つの基本目標の一つに「男女があらゆる分野に平等に参画できる機会の確保」があります。

その具体的施策として「行政と市民・事業者等が防災・災害復興・観光・環境保全等の様々な分野における協働のまちづくりを進める。新たな市民の参画の促進と女性の関心や知識・経験を活かした地域課題の発見・解決に努める」があります。



★避難所には 間仕切り・カーテンを

授乳やおむつ交換、あるいは障害者や要介護の方など、状況に応じてカーテン・畳・間仕切りなどを準備する。

★男女別更衣室を設置する



★家事・育児・介護は男女が協力し合って

家事・育児・介護は、男女が協力して行い、負担が偏らないように。

★託児・介護ボランティア

保育所の閉鎖などの事態に備え、託児や遊び相手、ボランティアを配置し、共働き家庭などのニーズへの対応や、負担が偏りがちな女性のストレスを防止。



★高齢者や赤ちゃん、 女性向け用品の備蓄

粉ミルクや、紙おむつなどの生理用品の備蓄。



★相談窓口や意見箱を

避難生活には悩みはつきものですが、ひとりで悩まないためにも、災害関係だけでなく、見逃されてしまいがちなDV(配偶者やパートナーによる暴力)や性暴力、高齢者・幼児虐待なども含めた相談窓口や意見箱を設置するなど、カウンセリングと心のケアに努める。



女性も災害についてももっと関心を持ち、地域での防災に関する勉強会や自主防災会をはじめ方針決定の場にも参画し、女性のニーズを反映していくことが安心・安全への第一歩ではないでしょうか。

また、災害に備えるのはもちろんですが、災害が起こった後に想定される問題を把握することも必要です。

全ての人が被災者となりうる大災害は、個人としての備えだけでなく地域や身近にいる人同士の助け合いと協力が大切です。日頃から家庭・職場・地域での男女平等・共同参画を進め、災害時も男女が共同してより広い視野で、スムーズな災害復興ができるよう努めて行きましょう。





高岡市男女平等推進センター 活動登録団体紹介

200X年まちづくりの会

平成11年に富山県の『県民が燃えるプログラム』の一環として、まちづくりへの住民参加の推進を目的に結成されました。テーマは環境で、「異分野の団体や組織が連携し、市民がともに考え、創りあげる」というワークショップの理念を会の根幹に据え、生活の中で培ってきた自然との付き合い方や暮らしの文化を現代に活かし、未来に引き継いでいくことを目指しています。

くらしを考える会

「政治は暮らしと直結」しています。私たちは、生活の中から生まれてくる疑問や課題について交流と学習を通して、自分たちに出来ることを探り、行動につながられるようにということを目指しています。女性の目線と感覚から政治を身近にしていくことが、差別のない共生の社会づくりの一歩です。あきらめないで歩んでいこうと話合っています。

楽学電腦座

パソコン活用をきっかけとして出来たグループですが、楽しく学べることならパソコンにこだわらず、何でも来いの集まりです。メンバーが興味を持った分野をお互いが教えあい、学び合っています。さらに、得たものを他の人々に伝えたり役立てたいと、それぞれの得意分野で講習会の開催などの活動をしています。

カーテンコール(高岡演劇鑑賞会)

年6回、昼・夜のいずれかに高岡の会場で演劇を鑑賞する会です。会員制で、公演内容は、人間の生き方をテーマに、平和・人権・男女問題等々、男女平等を推進する面での話題は豊富です。鑑賞運動にかかわることを通じて、芝居を楽しみ、人間関係を豊かにし、差別・格差のない高岡をめざしたいと願っています。

あなたのグループもセンターに登録しませんか?

センターのホームページ(<http://www2.city-takaoka.jp/gec>)で、上記以外の登録団体・グループも紹介しています。

2009年
7月末現在の登録
45団体

インタビュー

ぼくの参考スタイル

幼稚園の先生編



中川 貴弘 さん

富山市在住。高岡第一学園附属第二幼稚園の教諭として4月より勤務。20歳。

中川先生は、同園初の男性の担任教諭として、女性ばかりの職場で奮闘されています。

Q この職業を選んだ理由は?

子どもの頃、近所にはいろんな年齢の友達がいって、楽しく遊んでいましたし、高校の総合学科で保育を選択し、この職業に魅力を感じたことが選んできたきっかけとなりました。

Q 仕事上で困ったことは?

子育て経験がないため、排泄の始末が不慣れなことです。しかし、体を使ってダイナミックな遊びができるところは利点だと思います。

Q 自身身りのこだわりは?

怪我をさせないように注意をしながら、子どもと真剣に向き合って、何に興味を持っていくかを探り、一緒に成長していきたいです。また、子どもたちに大好きだと思ってもらえる幼稚園にしたいです。

Q 保育の現場で学んだことは?

実際に現場で仕事してみると、子どもたちが喜ぶことは、教科書には載っていないこともありました。子どもと目線

を一緒にすることで、考え方や見方を知り、一人ひとりの個性に気付く毎日です。また、教える立場なので自分の生活態度をきちんとし、いろんなことに気を配るようになりました。

実は、先輩方の子どもたちへの言葉がけの豊かさに触れた時、自分の言葉の乏しさに落ち込んで辞めたくなったことがありました。でも、それでは子どもたちが可哀想だと思って気を取り直して、一緒に遊んで遊んだことがエネルギーとなり乗り越えられました。子どもたちに支えられていると思います。

Q 将来の夢や願望は?

教員養成学校時代に見た、第二幼稚園の表現遊びのビデオで、とても印象に残っているものがあります。それは、クモを「気持ち悪い」と言っていた子どもがある日、朝露に光る巣を見て「きれいね」と、別のイメージで捉えたことをきっかけに、クモに関する本を読み聞かせたり、教室の中に巣に見立てたビニールテープを張り巡らし、子どもと先生がクモや獲物のガになりきって、体をいっぱい使って遊んだりするということです。私もそんな子どもの感性を大切に保育ができる先生、そして、いつも笑顔でいられる先生になりたいです。

一緒に取材に応じてくださった柳瀬明美教頭先生は「指導するうえで、男性とは考えず一人の幼稚園教諭として接し、一緒に成長していきたい」と、おっしゃっていました。

セピア色の 写真から

「菅笠づくりは、私の友だち」

南 すめさん

(一九二九)



越中福岡の菅笠製作技術が今年三月、国の重要無形民俗文化財に指定されました。「菅笠づくりは、私の友だち」と話す南すめさんは長年、菅笠づくりに携わり、平成八年には新しく考案した菅民芸品作りが認められ、高岡地区広域圏『ふるさと名人』に認定されました。年齢を感じさせず元気な若々しい南さんにお話を聞きました。

菅笠づくりへの思い

南さんは五位山の山間部に位置する西明寺で生まれました。西明寺は山と水の恵みが豊かで、沼地が多く菅づくりに適した地域だ。

女学校を卒業し二十二歳で、近くに住む会社員、俊信さんと結婚した。この地区では良い笠を縫えることが良い嫁の条件とされ、笠ぼんこ(笠縫い道具)は嫁入り道具だった。

「菅笠づくりは農閑期の仕事で、福岡の冬の気温や湿度が適している。昔は年金制度も無く、笠縫い賃は生活の糧だった。夜遅くまで菅笠を縫っていた祖母の姿を覚えている」と、南さんも自然と菅笠づくりを始めた。菅笠づくりの工程は

割以上を占める。

今年三月の国の重要無形民俗文化財指定は、生産・製作形態を保ったまま四百年以上にわたり今日に伝承され、菅草の栽培から笠骨作り、笠縫いから仕上げ、出荷までの全工程が手作業で集約的に行われているのが認められたからだ。だが、近年は菅笠づくりに携わる家も少なくなり、後継者の育成や材料の菅の入手が課題となっている。

ワインケース・円座づくり

分業制で、笠縫いは女の仕事とされ、熟練者でも一日に作れるのは二、三枚だ。「以前、雪崩に遭った人が、菅笠で顔に雪が入らず命拾いをしたと聞いたこともある」という言葉に、南さんの菅笠づくりへの思いが感じられる。

福岡の菅笠

福岡の菅笠生産は、特産品として加賀藩を挙げての奨励を受けて本格的に始まった。江戸時代末には笠問屋も多くみられ、年間二十万枚を出荷し、「加賀笠」の名で広く知られ全盛を誇っていた。

菅笠は雨を通さず日よけになり、農業や旅の必需品として使用されてきた。今は踊り菅笠や民芸品としても販売され、年間六万枚を出荷し、全国シェアの約九

「ふるさと名人」に認定

南さんは福岡町産業文化祭に十数回、入賞している。「雲版・壁掛け・ペン立て・籠・衝立と、一度賞を貰うと嬉しく、今度は何を作ろうかとワクワクして考えた。アイデアが次から次へと湧き出てきた。平成八年には、高岡地区広域圏『ふるさと名人』に認定された。新しい菅民芸

品の考案や後継者の育成に尽力したことが認められたのだ。「思いがけないことだったけど、家族みんな喜び、周囲の皆さん、夫や家族のおかげと感謝した」そばで温かくアドバイスし、励ましてくれた俊信さんも三年前に亡くなった。

菅笠づくりは友だち・元気の秘訣

「私の元気の秘訣は、菅笠づくり。生活の楽しみであり、私の大切な友だちです。ストレスをためず気楽に、初心を忘れず」の言葉を心に刻んでやってきました。菅笠づくりは毎日のこと、今は体操教室へ出掛けたり、友だちとお茶を飲んで話をしたり、花作りも楽しんでやっています」南さんは着物も自ら洋服に作り替えて着こなし、日常生活にもアイデアと創造力を発揮している。



菅笠には、一針一針縫っていく手作りの温もりがある。その伝統を残そうと「元気な限り作り続けたい」と話す南さんの笑顔はととても素敵でした。

センターから

高岡市男女平等推進センター

ポジティブ・アクションとは？

～ 女性の活躍を推進する取り組み ～

今年は国連で女子差別撤廃条約が採択されて30年、そして男女共同参画社会基本法が施行されて10年という節目を迎えますが、必ずしも多くの職場では男女平等になっていません。ポジティブ・アクションとは、男女間の格差を解消し、事実上の平等を達成するために企業が行う自主的かつ積極的な取り組みのことです。(ただし「女性の少ない職場への配置」や「管理職への登用推進」等を行うからといって意欲・能力が男性よりも劣る人まで引き上げるといった女性の「優遇」制度ではないことを付け加えておきます。)

私自身がキャリアを積み上げることができたのは、企業が求める結果の期待にきっちり成果として応え、昇進試験にもチャレンジする等の努力を重ねる一方で、上司に恵まれ、女性であることを意識せずに仕事を

してこられたおかげだと思っています。その経験があるからこそ、多くの女性たちに能力を発揮できる場をもっと拡げていきたいですし、仕事のやりがいや楽しさをもっと感じてほしいと願っています。



ポジティブ・アクションを進める場合、性別に関係なく持てる力が発揮できるように職場環境を整えつつ、まず中間管理職の意識改革をするとよいでしょう。なぜなら企業のトップが方針を打ち出しても、課長・係長が女性に責任の重い仕事を任せないと、女性を叱れない、育てない、男性のアシスタントと考えている等により徹底されないことが多いからです。

ポジティブ・アクションの効果は、女性社員の生活者としての視点に立った商品開発やサービスが業績面で成果につながることや、積極的に業務に取り組む姿勢が他の社員にも良い影響を与えること、定着率が向上することなど、社内全体が活性化し企業経営に大きなプラスになることです。このような「好事例」を見せて、女性の能力を活用しようと中間管理職の腰を上げさせることができれば、ポジティブ・アクションの連鎖が動き出します。男女雇用機会均等法の円滑な運用はもとより、ポジティブ・アクションの一層の推進に期待しています。

(高岡市男女平等推進センター所長 野村乙美)

高岡市男女平等推進プラン情報誌「ありて」は男女平等・共同参画の推進を目的に、公募による市民編集員が企画・編集しています。

【編集員】 青島 幸子 川縁晴津子
久湊 洋子 山田 美紀



ありて キャラクターデザイン：山崎 可菜さん(高岡市在住)
表紙イラスト：川縁 晴津子さん(ありて編集員)

発行／高岡市男女平等推進センター

〒933-0023 高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡6階)
電話／0766-20-1810 FAX／0766-20-1815
E-mail／gec@office.city.takaoka.toyama.jp
ホームページ／<http://www2.city-takaoka.jp/gec/>

- 「ありて」は上記のHPでもご覧いただけます。
- この情報誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

男女平等EXPO 高岡2009

とき 平成21年11月1日(日)
午後2時～4時

ところ 生涯学習センターホール
ウイング・ウイング高岡4F

創作落語で活躍中の
桂 あやめさんが出演!



- ◇寸劇 県男女共同参画推進員高岡連絡会
- ◇落語と講演 落語家 桂 あやめさん
- ◇シンポジウム

総合司会：車 吉章さん

詳しくは、男女平等推進センターまで